

学芸発表会

本番前の合唱練習



失敗してもいいんです！
挑戦する気持ちでやってほしい！
「失敗は成功のもと」

～その2～

本番前の円陣



吹奏楽部の演奏



生徒会「BTA 文林タイムトラベルアドベンチャー」



学芸発表会の感想文

「らしさって？」

「(省略) 先生方、本当にありがとうございました。これで終わります。」

私が、前に立って胸を張ってそう言えたのは今までの練習の成果が各グループ、学年で出すことができたからです。上手い出来ないことも、雰囲気が悪くなってしまうことも、時々ありましたが、私たちにしかできないことをしようと皆で協力したからです。

私たち二年生は学校の中で、一番遅く学年練習を始めました。歌の練習では、他の学年と半分人数が少ないので、伴奏からは全然、声が聞こえませんでした。加藤先生には「プロの合唱団は、二年生と同じ十数人で歌っているんだよ。でも、プロがとても大きなホール響く歌声を出せるのは一人一人が大きな声、キレイな声を出しているから、それが合わさっているんだよ。だから、皆も一人一人が大きな声で歌えばいい。練習すればいい。他の学年と同じ大きい歌声になるから。」と言われ、確かにそうだなとは感じました。でも、一年生や三年生のようにできないなら、二年生の私たちにしかできない歌声で歌って、発表しようと思いました。

でも、皆の声はあんまり大きくならないし、顔がムスツとしていい歌ではないから、私は男子の歌声を強化するべく、一週間切ってからパート練習時間を増やしました。でも練習時間は短く、当日の朝も全員で声出しをして本番へ。体育館練習に比べたら、一番いい出来栄えでしたけれど、本当にお客さんに届いたかどうか不安で仕方ありません。でも、生徒会長の言葉でも言ったように、私たち二年生にしかできない発表だったと思います。「らしい」って何でしょうか。私はずーっと考えていることです。一年生や三年生と比べないことでしょうか。一人一人が個性で居ることでしょうか。協力して乗り越える、つないでいくことでしょうか。私は、まだ答えがわかりません。それでも、生徒会長の言葉で「～しかできない。」「～らしい。」といった言葉を使った私には、文林学芸発表会で実った全てのものが、「らしい」になるのではないかと感じました。合唱、劇、発表、展示・・・全て各ブースにおいての「らしさ」がでていたと思います。その考えが合っているかどうかはわかりません。それでも、今回の文林学芸発表会では、また新たな発見と考え方が芽生えました。これからの日常生活において、そういったものをたくさん増やしていきたいなあと思います。頑張ります。



保護者の皆様へ

日頃より本校の教育活動にご理解、ご協力いただきまして誠にありがとうございます。

10/31(火)に「学力向上プログラム WAT 観点・領域別達成度検査」の「個人成績表」を返却しました。ご家庭でご確認ください。また現在、今回の検査に基づいて作成された「フォローアップシート」を朝学習として取り組んでいます。しっかり復習をして、さらに向上心をもって得点が伸びていくと良いと思います。